

町長一般経過報告

第2回広野町議会定例会 “日本一元気な町づくり” ふる里復興・創生「継承の年」

—いのちを守り、人を活かし・未来をつくる町—



遠藤町長

令和4年第2回広野町議会定例会が6月15日から16日までの会期で開催されました。一般質問を経て議案審議がなされ、すべての議案が原案どおり可決されました。

会期初日には、遠藤町長が第1回定例会（3月開催）以降の町政経過報告を行いました。町民の皆さまにお伝えしたいことがたくさん盛り込まれていますので、主の内容の抜粋を掲載します。

新型コロナウイルス感染症対策本部

新型コロナウイルス新規陽性者につきましては、第7波の影響により、町内において、4月に31名、5月に19名が確認されました。新規陽性者が確認された際において、新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催、現況を精査し、こども園、児童館、小・中学校、二ツ沼総合公園並びに社会福祉協議会等の公共施設の対応について協議を行い、防災行政無線広報、町ホームページにより住民周知を行いました。

新型コロナウイルス感染症ワクチン3回目接種につきましては、3月26日、4月23日、5月28日、広野町保健センター及び広野町中央体育館において集団接種により実施し、5月末で8割の接種を行う接種計画が達成することができました。新型コロナウイルス感染症ワクチン4回目接種につきましては、7月からの実施に向けた準備を進め、円滑なワクチン接種に取り組めます。

今後も新型コロナウイルス感染症における国、県の動向、

感染状況等を注視し、対策本部会議において適時、適切な対応に取り組みます。



正面玄関に設置している新型コロナウイルス感染症対策本部会議看板

総務課

3月16日に発生した福島県沖地震に係る自治体支援のため、桑折町へ3月24日から4月22日までの30日間、職員延べ10名を派遣しました。県町村会を通じ、県内市町村へ派遣要請があったことから、これまでご支援頂いた経緯を踏まえ職員を派遣したものです。また、相馬市へは5月9日から5月31日まで職員延べ7名を派遣しました。

4月16日、行政区長会議を開催しました。令和4年度における広野町の重点事業と要望、質問への対応並びに新型コロナウイルス感染症対策の

経過等について説明を行いました。行政区長の皆様からいただいた貴重なご意見を施策に反映し取り組んでいきます。



県内被災自治体への派遣者意見交換会

4月28日、職員の創意工夫による提案を奨励し、事務改善の推進と町民サービスの向上を図ることを目的とした広野町職員提案制度に基づき、表彰式を行いました。令和3年度中に提案のあった29件のなかから、最優秀賞、優秀賞を選出し、実行可能な提案については、町民サービスの向上に取り組んでいきます。

5月22日、災害時相互応援協定を締結している三郷市において、市制50周年記念式典が挙行され、出席いたしました。三郷市からは震災直後から多くの支援をいただきました。

関係する協定」締結式を議長同席のもと執り行いました。

こども家庭課

4月2日、広野こども園の入園式を議長ご臨席のもと実施しました。一歳児から五歳児までの25人が新たに入園し、こども園の全園児数は88人となっております。

4月6日、広野町児童館の入館式を議長ご臨席のもと実施しました。15人が新たに入館し、児童館の全児童数は67人となっております。



児童館の入館式

5月20日に予定していたこども園親子遠足は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、福島県子ども感染拡大防止重点対策に基づき、日程を6月17日に延期しました。

復興企画課

4月23日、24日、Jヴィレッジにおいて、ももいろクローバーZの野外ライブ「ももいろクローバーZの野分ライブ」を新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じ、開催しました。会場には、交流オープンスペース「きてくんちえパーク」が設けられ、地元物産やご当地グルメなどのブースが出店しました。イベントには、2日間約20,000人の来場者があり、盛会裡に実施されました。

5月3日、二ツ沼総合公園において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により3年ぶりとなる「二ツ沼総合公園ふれあいフェスタ」が、株式会社広野町振興公社主催のもと開催されました。当日は、各種団体による飲食ブースや公園内の遊具で遊ぶ多くの家族連れで賑わいました。会場では、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に伴う難民に対する人道支援として募金活

動が行われました。集まった募金は、日本赤十字社福島県広野町分区分を通じてウクライナに送られます。

5月29日、大熊町「りんくろの大熊」において、西銘恒三郎復興大臣、鈴木正晃福島県副知事をはじめ、復興庁及び福島県、被災12市町村長などの関係者が一堂に会し「12市町村の復興・再生に関する懇談会」が開催されました。懇談会では、原子力災害被災地の産業復興、農林水産業の再生、移住定住の促進などについて意見が交わされました。

5月31日、原子力災害による緊急時避難準備区域に指定されていた広野町、南相馬市、田村市、川内村の4市町村は、福島復興局において、復興大臣及び原子力災害現地対策本部長に対して要望活動を実施しました。当日は、生沼裕福島復興局長、辻本圭助原子力災害現地対策本部副本部長に対し、医療費免除や高速道路無料化措置など、福島第一原発事故に伴う被災者支援の継続と帰還住民の生活再建に対する切れ目のない支援策が必要であることを強く訴えました。

6月4日、西銘恒三郎復興大臣が県立ふたば未来学園中高一貫校及び二ツ沼総合公園バナナ栽培をご視察されました。ふたば未来学園では、大沼博文県教育長、郡司完校長が同席のもと、高校3年生の和賀七菜香さんによる地域探求の取り組みについて発表がありました。二ツ沼総合公園では、広野町振興公社中津弘文社長による国産バナナ栽培の概要説明後、バナナ栽培ハウスに移動し、ゼロカーボンに向けた地中熱の取り組みについて説明いただきました。西銘大臣からは、広野町の震災復興に取り組む姿勢を大いに評価していただきました。



花いっぱい運動

6月6日、福島県双葉復興事務所長、JR東日本いわき駅長、議長はじめ議会議員の

健康福祉課

5月27日、高齢者や障がい者等にやさしいまちづくりを目指すため、地域の医療・介護・福祉の様々な課題に迅速かつ適切に対応するために相互に連携し、包括的な地域連携体制としての福祉のまちづくり構築を図ることを目的として、社会福祉法人友愛会と「福祉のまちづくり構築等に

皆様ご臨席のもと「未来のかげ橋エレベーター竣工式」を開催しました。東日本大震災・原子力事故後、復興の拠点として整備を行ってきた広野駅周辺において、バリアフリーを念頭に、常磐線の東西を行き来する上で、一つ魅力が加わりました。